

## 社会問題に対する思考力育成を重視した中学校社会科授業の研究(1)

### —「構造規定としての社会問題」を扱う授業の場合—

土肥大次郎<sup>\*1</sup>，福田 正弘<sup>\*1</sup>，赤井 君博<sup>\*2</sup>，  
佐藤 弘章<sup>\*2</sup>，高濱 功輔<sup>\*2</sup>，道越 慈久<sup>\*2</sup>

#### 1. はじめに

社会科は「社会認識を通して市民的資質を育成する」教科とされる。しかし、教育現場での社会科授業をみると、社会問題に対して判断・関与していく市民の育成を強く意識した授業が数多く実践されてきたとは言えない。ただし、最近はこのような授業への関心が高まり、研究授業などでは、社会問題を扱い意思決定をさせるような授業も多くなってきた。さらに、社会科教育学について近年の成果をみると、社会問題を扱い、議論や社会参加などを重視する改革論が示されている。代表的なものとしては、民主主義の方法としてディベートを重視する社会科ディベート授業（佐長健司）<sup>1)</sup>、サービスラーニングを取り入れて社会の中でできることを子どもが実行していく社会参加学習（唐木清志）<sup>2)</sup>などが挙げられる。

このように、教育現場と社会科教育学研究のどちらも、社会問題を扱い市民的資質育成に大きく関わる授業への注目がみられる。そして、これらの授業は子どもの積極的な活動が重視されて魅力的にみえ、授業方法の精緻化も進行している。しかし、これらには共通の課題がみられる。それは、社会科固有の役割である社会認識形成を必ずしも計画的に行わず、子どもの知的な成長を十分に保障するものとはなっていないことである。

社会科についてこうした状況がみられる中、本研究では、社会科授業は社会認識形成に重点を置きつつ、市民の育成を強く意識していくべきと考える。そのためには、社会問題への子どもの性急な参画をめざすのではなく、今後も持続的に考えていくべき問題、類似したことが起こるであろう問題を対象化して扱い、客観的・間主観的に妥当な思考・判断ができるようにする必要がある。社会問題に対する思考力育成を第一とし、将来市民として判断・意思決定する際に必要とされる認識の形成をめざすのである。

こうした立ち位置からの研究で授業開発まで行うものは、これまでも幾つかみられた<sup>3)</sup>。ただし、それらは社会問題に対する多様な捉え方のうち、特定の捉え方のみを前提にしている。それに対し、本研究では社会科授業が扱うべき社会問題を広い視野から捉え、まずは社会問題についての類型を確認するところからはじめる。そして、各類型の問題を扱う授業について、それぞれそのあり方を示し、具体的な中学校社会科授業の開発までを行う。

---

※1：長崎大学教育学部

※2：長崎大学教育学部附属中学校

## 2. 社会問題の類型

「社会問題とは何か」、この問いに対し、誰もが納得できるような解答を得ることは難しい。実際、社会問題はさまざまな捉え方にもとづいて論じられ、社会科授業で取りあげられる社会問題も多様なものとなっている。

こうした社会問題の捉え方について溝口和宏は、大きく三つの立場に集約されると論じる<sup>4)</sup>。第一の捉え方は「社会に実在する客観的な状態（ないし欠損状態）」であり、第二は「行為や政策、制度などをめぐる、価値観の異なる個人・集団による選択・判断の相違や衝突によって形成されたもの」で、第三は「社会問題を個人・集団の間のコミュニケーションを通して構成・再構成される、集団的なカテゴリーや定義づけの産物」である。そして、これらをそれぞれ「構造規定としての社会問題」、「価値葛藤としての社会問題」、「定義闘争としての社会問題」と言い表している。

この三類型は、多様な形で論じられる社会問題の全体を網羅しつつ、簡潔に整理・類型化したものとして評価できよう。本研究はこの三類型にもとづき、類型ごとに授業のあり方を検討し、中学校の授業開発を行う。なお、この小論においては紙幅の都合上、研究全体の一部として、「構造規定としての社会問題」を扱う場合の授業に関して示すこととする。

## 3. 「構造規定としての社会問題」を扱う社会科授業

「構造規定としての社会問題」は、公共空間の全ての人々が、問題がある、解決すべきとするであろう、という前提で考えていく問題である。具体的には、貧困の問題、飢餓の問題、平和に関わる問題、公害被害の問題、あるいは通学路の安全に関わる問題などが扱われよう。こうした問題を扱う授業では、その目標は、社会の問題ある状態の解決に向けた思考力・判断力（意思決定力）の育成となる。

授業の目標についてさらに、価値認識と事実認識に分けて少し詳しく述べる。まず価値認識についてだが、「構造規定としての社会問題」が内包する価値とは、恐怖や欠乏、肉体的苦痛、極端な占有等に関わる基本的なものとなろう。これらの価値は具体的な問題が提示された際、子どもが直観的・常識的に捉えられるもので、また解決すべきものとしているため、他の価値との葛藤なども意識しない。そのため、授業で殊更に価値を取りあげる必要はない。この類型の社会問題を扱う授業では、価値は自明として、価値認識の指導は行わないことになる。

次に事実認識について、「構造規定としての社会問題」を扱う授業では、構造に規定された問題の合理的な解決策を考えられるようにするため、問題を生じさせた因果や機能、あるいは問題の要素・本質の解明が重要となろう。最終的な解決策の検討・意思決定は、自明な価値（「恐怖を減らすべき」など）および一定の目的（「公害被害をなくす」など）のもと、どのような手段を選択するのか、原因等の事実認識にもとづいた知的・道具的な合理性をもつ決定がめざされ、社会工学のような決定をすることになる。

#### 4. 「構造規定としての社会問題」を扱う社会科授業の開発

本章は「構造規定としての社会問題」を扱う具体的な授業を提示するが、社会問題解決に向けた思考力育成をめざすこうした授業は、大きく二つに分類できる。一つは「なぜ（why）問題が生じるのか」という発問にもとづき授業を構成し、問題に関わる因果や機能を解明して、解決策を考えられるようにするものである。もう一つは「何（what）が問題なのか」という発問より、問題の要素・本質を解明し、解決策について考えられるようにしていく。こうした二種類の授業があるため、それぞれに応じた授業を提示する。

「なぜ（why）」にもとづき因果や機能を捉えようとする授業について、具体的に構成したものが、36－40 頁の表 1 に示す小单元「アフリカが抱える問題」である。この小单元は、平成 20 年版中学校学習指導要領の地理的分野、大項目「（1）世界の様々な地域」の中項目「ウ 世界の諸地域」にもとづき開発した。小单元の目標は次のとおりである。

アフリカ諸国が抱える高い死亡率という問題、さらにそれに深く関わる食料問題について、これら問題に関わる因果関係を説明できる。そしてアフリカが抱える問題に対し、原因を踏まえた知的・道具的な合理性をもつ解決策を考えることができる。

近年、研究授業等でみられる社会問題の解決策を考える授業は、調べ活動や話し合い、発表などが重視されるものの、認識内容については子どもたちの常識を超えるものとは必ずしもなっていない。それに対してこの小单元は、「なぜアフリカでは死亡率が高いのか」について、数多くの信頼できるデータ等にもとづきながら、食料問題、医療・衛生の問題から説明できるようにし、さらに感染症の深刻さにも着目させている。食料問題については「なぜアフリカでは食料問題が生じるのか」を、先と同様に各種資料を活用して、アフリカのローカルな状況から、さらにグローバルな構造から考え、因果関係を探求させていく。こうした授業は、認識形成を子どもの活動ばかりに委ねるのではなく、高い質を保障するため意図的計画的に行おうとするもので、社会問題解決に向けた有用な思考力育成を重視している。そして最後には、授業で捉えられるようになった因果関係を踏まえ、問題の解決策を実際に考えていく。

一方、「何（what）」にもとづき要素・本質を捉えようとする授業について、具体的に構成したものが、41 頁の表 2 に示す小单元「平和な社会について考える」である。この小单元は、平和学習や他校との交流学习を行ってきた長崎大学教育学部附属中学校での実践を前提とする歴史的分野の授業で、中学校での歴史学習最後のまとめに位置づけている。小单元の目標は次のとおりである。

平和な社会について、その要素・本質に関して言い表すことができる。そして平和な社会についての要素・本質を踏まえながら、平和な社会が十分に実現されていない状況を捉え、そうした状況に対する知的な合理性をもつ解決策（自分たちにできること）について考えることができる。

表 1 小単元「アフリカが抱える問題」の展開過程

【 1 時間目 】 アフリカの高い死亡率

	教師の発問・指示	資料	学習内容
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界から多くの観光客が訪れるタンザニア、ナミビア、モロッコ、3カ国の位置を調べよう。</li> <li>・3カ国の写真をみて、最も訪れたい国はどこかを考えよう。</li> <li>・アフリカには様々な魅力があるが、一方で問題も多く抱える。アフリカの特に大きな問題とは何か。</li> </ul> <p>◎今日はアフリカの大きな問題の一つである、アフリカの死亡率の高さについて考えるが、なぜアフリカでは死亡率が高いのか。</p>	<p>地図帳</p> <p>①</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンザニア、ナミビア、モロッコの3カ国は、いずれもアフリカの国である。</li> <li>・3カ国はそれぞれ、魅力的な自然や歴史的遺産・文化等がみられる。</li> <li>・アフリカは多くの問題を抱えている。</li> </ul> <p>(予想する：頭の中で考えさせる)</p>
展開 1	<p>○世界の諸地域の中で、死亡率が高いのはどこか。アフリカの死亡率は他地域よりも本当に高いのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界全体で、現在人口は何人か。1年間で何人が死亡するのか。死亡率の平均値はどのくらいか。</li> <li>・死亡率が9‰を上回る(死亡率が高い)国が多いのは、世界のどの地域か。統計表にもとづき答えよ。</li> </ul> <p>・なぜヨーロッパでは死亡率が高いのか。エチオピア、ドイツ、メキシコの人口ピラミッドを比較しながら考えよう。</p> <p>・日本の死亡率はどのように推移してきたか。</p>	<p>②</p> <p>③</p> <p>④</p>	<p>(予想する：アフリカの死亡率は他地域よりも高いと予想すると考えられ、以下その確認を行う)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の人口は約72億人で、年間死亡数は約6,000万人。死亡率の平均値は約8‰である。※パーミルの意味を確認する。</li> <li>・ヨーロッパとアフリカは死亡率が高い。死亡率9‰以上なのは、アジアは47カ国中6カ国、ヨーロッパは45カ国中29カ国、アフリカは54カ国中40カ国、北米は23カ国中1カ国、南米は12カ国中1カ国、オセアニアは15カ国中1カ国である。</li> <li>・ヨーロッパで死亡率が高いのは、高齢者の死亡が多いためである。ヨーロッパでは社会全体の高齢化により、近年死亡率が上昇している。※ここでは旧社会主義国の諸問題には触れない。</li> <li>・日本の死亡率は20世紀に大きく低下したが、20世紀末以降は上昇し、現在は9‰以上である。</li> </ul>
展開 2	<p>○なぜアフリカでは死亡率が高いのか。ヨーロッパと同じ理由か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児死亡率の世界平均は約20‰だが、乳児死亡率が40‰を上回る国が多いのは世界のどの地域か。統計表にもとづき答えよ。</li> <li>・なぜアフリカでは死亡率が高いのか。乳児死亡率について考慮し、さらにエチオピア、ドイツ、メキシコの人口ピラミッドを比較しながら考えよう。</li> </ul>	<p>②</p> <p>③</p> <p>⑤</p>	<p>(予想する：アフリカは若い人々の死亡も多いと予想すると考えられ、以下その検証を行う)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アフリカは乳児死亡率が高い。世界で乳児死亡率が40‰以上の国は54カ国あり、そのうち42カ国がアフリカの国である。なお日本の乳児死亡率は2‰である。</li> <li>・アフリカで死亡率が高いのは、様々な年齢層(特に乳幼児)の死亡が多いためである。アフリカは、他地域の発展途上国と比べても、非高齢者の死亡率が依然として高い国が多く、全般に平均寿命が短い。</li> </ul>

展開 3	<p>○なぜアフリカでは様々な年齢層の死亡率が高いのか。</p> <p>・穀物自給率が50%を下回る国が多いのは、世界のどの地域か。</p> <p>・人口1万人あたりの医師数・病床数が少ないのは、世界のどの地域か。</p>	<p>(予想する：アフリカは食料問題や医療・衛生の問題から様々な年齢層の死亡率が高いと予想すると考えられ、以下その検証をまずは行う)</p> <p>⑥・アフリカは食料問題が影響し、様々な年齢層の死亡率が高い。食料問題は飢餓を引き起こすほか、人々の健康に様々な影響を及ぼす。穀物自給率が50%を下回るのは、日本などのほか、アフリカ諸国に多い。</p> <p>⑦・アフリカは医療・衛生の問題が影響し、様々な年齢層(特に乳幼児)の死亡率が高い。アフリカは1万人あたりの医師数が1人未満の国も多く(日本は23人)、病床数が20未満の国も多い(日本は137)。</p>
	<p>・アフリカで乳児死亡率がそれほど高くなく(40‰未満)、医療・衛生の問題が比較的少ない国の死亡率はどうなっているか。統計表にもとづき答えよ。</p> <p>・アフリカで乳児死亡率がそれほど高くなく、医療・衛生の問題が比較的少ない国で、死亡率が高い国(9%以上)はどこか。統計表にもとづき答えよ。</p> <p>・なぜアフリカ南部のボツワナや南アフリカでは死亡率が高いのか。</p> <p>・アフリカのH I V感染者数や割合はどうなっているか。そしてH I V感染割合が特に高い国(10%以上)はどこか。</p> <p>・アフリカでは、H I V以外にどのような感染症が多くみられるか。</p>	<p>②・アフリカにおける死亡率の高さと医療・衛生の問題との因果関係が再確認できる。北アフリカ諸国など、乳児死亡率がそれほど高くなく、医療・衛生の問題が比較的少ない国は、死亡率が8‰(世界平均)未満のことが多い。</p> <p>②・アフリカ南部のボツワナや南アフリカなどは、乳児死亡率がそれほど高くなく、医療・衛生の問題は比較的少ないが(そして1人あたり国民総所得も比較的高いが)、死亡率が高い。</p> <p>(予想する：予想は困難だと考えられ、教師から予想のためのヒントを与える)</p> <p>⑧・アフリカの死亡率の高さは、食料問題や医療・衛生の問題以外にも、H I Vなど感染症の多さも影響している。アフリカはH I V感染割合が高く、アフリカ南部の国々は特に高い。H I V感染割合はボツワナ23%、南アフリカ18%である。</p> <p>・アフリカでは、H I V以外にもマラリアや結核などの感染症が多く、最近では西アフリカ諸国でエボラ出血熱が大流行した。</p>
終 結	<p>◎なぜアフリカでは死亡率が高いのか。</p> <p>○日本、そして私たちはアフリカの死亡率の高さの問題に対し、何をしていくべきだろうか。</p>	<p>◎アフリカで死亡率が高いのは、様々な年齢層の死亡率が高いため、食料問題、医療・衛生の問題、感染症の多さが影響している。</p> <p>○日本、そして私たちはアフリカにおける死亡率の低下をめざし、食料問題、医療・衛生の問題、感染症の問題に対して考え行動していくべきである。ただし、具体的な解決策を考えるためには、問題に対するより詳細な分析が必要となる。</p>

## 【2時間目】 アフリカの食料問題 1

導 入	<p>・アフリカで死亡率が高いのはなぜだったか。</p>	<p>(前時の確認をする)</p>
--------	------------------------------	-------------------

	◎今日はアフリカの問題として、死亡率の高さにも関わる食料問題について考えるが、なぜアフリカでは食料問題が生じるのか。		
展開 1	<p>○世界の諸地域の中で栄養不足人口が多いのはどこか。</p> <p>・現在、世界の栄養不足人口は何人か。世界の諸地域の中で、栄養不足人口が多いのはどこか。</p> <p>・世界の栄養不足人口、サハラ以南アフリカの栄養不足人口の推移はどうなっているか。</p>	<p>⑨</p> <p>⑨</p>	<p>(予想する：アフリカは栄養不足人口が多いと予想すると考えられ、以下その確認を行う)</p> <p>・アフリカは栄養不足人口が多い。世界の栄養不足人口は約8.7億人で、特に多いのは南アジア3.0億人、サハラ以南アフリカ2.3億人、東アジア1.7億人である。</p> <p>・世界の栄養不足人口は減少傾向だが、サハラ以南アフリカは、必ずしもそうっていない。</p>
展開 2	<p>○地域内のローカルな状況から考えて、なぜアフリカでは食料問題が生じるのか。</p> <p>・自然環境に注目して考えると、アフリカで食料問題が生じるのはなぜか。</p>	⑩	<p>(予想する：干ばつ、内戦などさまざまな予想が出ると考えられ、以下その検証を行う)</p> <p>・アフリカの食料問題は、干ばつ等の異常気象や砂漠化など、自然の問題や環境問題が影響している。特にサヘルでは、これらの問題から深刻な食料問題がみられる。</p>
	・技術(農業技術)からみて、アフリカで食料問題が生じるのはなぜか。		・アフリカの食料問題は、粗放的で生産性の低い農業が行われるなど、農業に関する技術の問題が影響している。そして近年の過剰な焼畑などは森林破壊や砂漠化の一因となっている。
	・社会の状況からみて、アフリカで食料問題が生じるのはなぜか。	② ⑪	・アフリカの食料問題は、人口爆発や貧富の格差など、社会の問題が影響している。アフリカの人口は1950年と比べて現在4倍以上に増加し、今後も大きく増加する。
	・政治の面から考えて、アフリカで食料問題が生じるのはなぜか。	⑫ ⑬	・アフリカの食料問題は、戦乱や政治の混乱、独裁下での諸問題など、政治の問題が影響している。アフリカでは政治の問題から農地の荒廃、不公平な食料分配、困難な食料輸送、援助物資の横取りなどが起きている。
展開 3	<p>○地球規模で考えた場合、現在の食料生産量は、全人口が必要とする量に対して不足しているのか。</p> <p>・現在世界の穀物生産量はどのくらいか。</p> <p>・穀物1tで1年間養うことができる人口は何人か。</p> <p>・現在の穀物生産量で養うことができる人口は何人か。計算して考えてみよう。</p>		<p>(予想する：現在世界の食料生産量は足りている、不足している、両予想が出ると考えられ、以下で確認をする)</p> <p>・現在世界の穀物生産量は25.5億tである。トウモロコシが8.7億t、米が7.2億t、小麦が6.7億tなどである。</p> <p>・穀物1tで養うことができる人口は5～7人くらいである。</p> <p>・現在世界の食料生産量は、全人口が必要とする量に対して足りている。現在の穀物生産量で養うことができる人口は100億人以上である。さらに、イモ類の生産量が8.1億tある。</p>

展 開 4	<p>○世界の食料生産量が足りているにも関わらず、なぜアフリカでは食料問題が生じるのか。地球規模、グローバルな構造から考えてみよう。</p> <p>○農産物の生産・貿易構造から考えると、アフリカで食料問題が生じるのはなぜか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物について、アフリカ諸国は先進国に何を輸出し、先進国からは何を輸入しているか。</li> <li>・アフリカ諸国がプランテーション作物の生産を重視するのはなぜか。</li> <li>・アフリカ諸国はプランテーション作物の栽培で、多くの外貨を獲得できるか。</li> <li>・アフリカ諸国は、先進国などから安定して穀物を輸入することができないのか。</li> </ul>	<p>(予想する：予想は困難だと考えられ、教師から予想のためのヒントを与える)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アフリカはプランテーション作物の生産を重視し、先進国にプランテーション作物を輸出し、アメリカなど先進国からは企業的に大量生産された穀物を輸入している。</li> <li>・アフリカ諸国は数少ない外貨獲得の手段としてプランテーション作物の生産を重視し、肥沃な土地で多く生産している。結果として、自給用作物の生産は重視されず、人口増加もあり輸入が増加した(現地で生産しないものも食べるようになった)。</li> </ul> <p>⑭・アフリカ諸国は、プランテーション農業ではあまり豊かになっていない。プランテーション作物の利益の多くは多国籍企業のものとなっている。また、国際価格の変動も大きく、プランテーション農業に依存する国の経済は不安定である。※最近のフェアトレードについて簡潔に述べる。</p> <p>⑮・アフリカ諸国は、先進国などから安定して穀物を輸入することが困難である。それは、自国の経済が不安定なことに加え、穀物の国際価格の変動が大きいためである。穀物の国際価格は、収量の変動に加え、アグリビジネスを行う多国籍企業の影響が大きいとされ、また投機の対象にもされているため不安定である。</p>
	<p>○「食」の偏りの問題から考え、アフリカで食料問題が生じるのはなぜか。たくさん生産されている穀物はどうなっているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進国(アメリカ)とアフリカ(エチオピア)を比べ、食生活はどのように異なるか。</li> <li>・日本の食品ロスは何年どのくらいの量になるか。</li> </ul>	<p>(予想する：先進国の飽食などの予想が出ると考えられ、以下その検証を行う)</p> <p>⑯・食料問題の一因には先進国等の飽食が挙げられる。先進国は1人あたり多くのカロリーを消費し、動物性の食品の消費も多く、アフリカはその逆である。そして家畜の肥育には多くの穀物が必要であり、鶏1kgの肥育では穀物4kg、豚1kgでは穀物7kg、牛1kgでは穀物11kgが必要で、穀物の半分以上は飼料用である。※先の穀物生産量には飼料用が多く含まれていることに注意させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食料問題の一因には先進国等の食品ロスが挙げられる。日本一カ国で見ても、食品ロスは年間500～800万tで、これは世界全体の食糧援助量400万tを上回る。</li> </ul>

【3 時間目】 アフリカの食料問題 2

導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本は毎年どのくらいの食糧援助をしているか。</li> <li>◎直接的な食糧援助以外、日本、そして私たちはアフリカの食料問題に対し、何をしていくべきだろうか。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本は毎年100億円以上の食糧援助をしており、1968年以降、合計5,000億円以上の食糧援助をしてきた。</li> </ul>
展開 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○なぜ日本がアフリカの問題に取り組まなくてはならないのか。人道的な理由以外に何かあるか。</li> <li>・日本がアフリカを援助する理由について、外務省はどのように説明しているか。</li> <li>・政府以外にアフリカへの援助を行っている組織はあるか。</li> </ul>	⑦	<p>(予想する：日本にもメリットがあるなどの予想が出ると考えられ、以下その検証を行う)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外務省の説明によれば、日本がアフリカを援助するのは、(1)世界の安定のため(国境を超える諸課題解決のため)、(2)国際社会で評価と信頼を得るため(日本の発言力強化に)、(3)国連など国際的な場面でアフリカ54カ国の存在が大きい、(4)経済的パートナーとして重要なため(多くの鉱産資源を埋蔵、潜在的な巨大市場)である。なお、最近アフリカでは、原油等の鉱産資源の輸出で経済成長が顕著な国も多い。</li> <li>・アフリカへの援助は、政府とN G O (非政府組織)が行っている。</li> </ul>
展開 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ローカルなアフリカの状況を考えたうえで、日本の強みを活かし、アフリカの食料問題に対して貢献できることは何か。</li> <li>○グローバルな視点から考えて、先進国に暮らす私たちが、アフリカの食料問題に対して貢献できることは何か。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で考える</li> <li>→・班で話し合う</li> </ul>
終結	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本政府やN G O の、アフリカの食料問題に関わる様々な取り組みのうちの一つを取り上げ、インターネット等で詳しく調べ、まとめよう。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で調べる</li> <li>→・班で発表する</li> </ul>

資料：①各国の写真、②『データブック オブ・ザ・ワールド 2014年版』二宮書店、p26・28・30・32。③「②」の前掲書、p43。④『数字でみる 日本の100年 改訂第6版』矢野恒太記念会、2013年、p38-39および p41などより作成（1930・1960・1990・2013年の日本の死亡率、老年人口率、人口増加率）。⑤『中学校社会科地図』帝国書院、2011年、p133（「平均寿命」）。⑥『新詳高等地図』帝国書院、2012年、p129（「穀物自給率と輸出入」）。⑦『世界国勢図会 2014/15年版』矢野恒太記念会、p447。⑧「⑦」の前掲書、p446。⑨F A O「Food Insecurity in the World」より作成（1990-92年・2010-12年の世界諸地域の栄養不足人口）。⑩『最新地理図表G E O 新版初訂』第一学習社、2014年、p41（「広がる砂漠化」）。⑪「②」の前掲書、p40（「大陸別人口変遷・将来人口」）。⑫「⑩」の前掲書、p170（「民族分布を無視して走る国境線」「南スーダンの誕生」）。⑬ジャン・ジグレル『世界の半分が飢えるのはなぜ？』合同出版、2003年、pp13-16。⑭「⑩」の前掲書、p195（「フェアトレード」）。⑮「とうもろこし価格の推移」世界経済のネタ帳H P。⑯「⑦」の前掲書、p451-452より作成（エチオピア・日本・アメリカの1日1人あたり食料供給栄養量）。⑰「よくある質問集 アフリカ 問2」外務省H P。



表2 小单元「平和な社会について考える」の展開過程

生徒の活動	教師の手だて・評価
1 本時の課題を確認する。	1 「世界平和度指数」のランキングを紹介し、日本は世界的に見て平和な国とされていることを示す。また、平和を指数で示す際、様々な見方があることに触れ、パネルディスカッションへの意欲を喚起する。
何が「平和な社会」の実現を阻むのか、多面的・多角的に考察する	
2 パネルディスカッションを行う。 <div> <p>— 設定 —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表時間は1テーマ3分とする。</li> <li>・一つの提言の発表後、ワークシートをまとめる時間を1分設ける。</li> <li>・すべての提言が終わったら、コーディネーターの指示の下、参観者を含め全員で「平和な社会」について意見を交わす。</li> </ul> <p>〈留意事項〉</p> <p>○発表者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はっきりと聞き取りやすい声で話す。</li> <li>・資料は黒板に提示して発表する。</li> </ul> <p>○聞き手</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提言の内容や、聞いて納得した点、質問したい点をまとめる。</li> </ul> </div>	2 留意事項を提示し、パネルディスカッションを行う上で気をつけるべき点を確認する。また、ワークシートに提言の内容や、聞いて納得した点、質問したい点などの気づきを記入するように指示する。 <div> <p>— 評価 —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提言された「平和な社会」の内容を聞き取り、ワークシートに様々な気づきをまとめることができたか。</li> </ul> <p>〈ワークシート〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気づきをまとめることが出来ない生徒はキーワードを書き出すように促す。</li> </ul> </div>
たくさんの意見を基に、「平和な社会」についての自分の考えを再構築する	
3 提言を聞いて持った「平和な社会」に対する新たな視点や考えを、これまでの自分の考えとつなぎ合わせ、自分の提言を見直し、発表する。	3 パネルディスカッションで出た意見を基にしながら「平和な社会」についての考えを深めさせる。 <div> <p>— 評価 —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平和な社会」について、多面的・多角的に考えたり、パネルディスカッションの内容を参考にしたりしながら、自己の考えを深めることができたか。</li> </ul> <p>〈発表、ワークシート〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提言を見直すことができない生徒に対しては、パネルディスカッションで印象に残ったことを記入するよう促す。</li> </ul> </div>
4 学習を振り返る。	4 提言された各テーマで、現在も改善されていないことを挙げ、公民的分野の学習や今後の社会情勢への興味・関心を高める。

この小単元は、平和な社会の実現という大きな課題に対し、漠然とそして拙速に解決策を考えることを回避し、「何が平和な社会の実現を阻むのか」を十分考えるように構成している。具体的には、過去の平和学習で行った太平洋戦争での被災体験・原爆被害についての聞き取り調査や、他校との交流学习で互いに提示した平和に関する様々な考えを振り返り、さらにパネルディスカッションを行い、平和な社会についての考察を進める。こうした学習から、戦争のような「直接的暴力」についての考えを深め、さらに「構造的暴力」についても学ぶ。繁栄・秩序・安全・正義・自由・平等・民主主義・人権尊重などの「積極的平和」の基本的要素に関わる問題、そして健康、福祉の充実、文化的生活、生き甲斐、環境保全に関わる問題など、非平和的状况について広い視野から考えられるようにするのである。そのうえで最後に、授業で捉えられるようになった要素・本質を踏まえ、平和な社会の実現に向けて、自分たちにできることを考える。

これら二つの授業は、より具体的な解決策を志向するのか、あるいは解決策を考えるうえで土台となる部分を重視するのか、といった違いがある。ただし、社会の問題ある状況に対し、事実にもとづく知的な合理性をもつ解決策を考えられるようにするため、事実認識の計画的な指導に重点を置くことは共通である。

## 5. おわりに

この小論の成果は、社会科授業が扱うべき社会問題を広い視野から捉え、社会問題についての三類型を確認し、そのうちの「構造規定としての社会問題」を扱う授業のあり方を示したことである。そして、こうした考察にもとづき、中学校社会科の具体的な二つの小単元「アフリカが抱える問題」、「平和な社会について考える」を提示することができた。

今後、「価値葛藤としての社会問題」、「定義闘争としての社会問題」、これらを扱う授業についても研究成果を示し、三つの授業の違いを明確にしたい。

---

## 【註】

- 1) 佐長健司『社会科でディベートする子どもを育てる』明治図書、1997年。
- 2) 唐木清志『子どもの社会参加と社会科教育』東洋館出版社、2008年。
- 3) 例えば次のようなものがある。
  - ・吉村功太郎「市民性の育成をめざす社会科授業の開発—公共性を視点にして—」『社会系教科教育学研究』第17号、2005年。
  - ・桑原敏典「合理的な思想形成をめざした社会科授業構成—シティズンシップ・エデュケーションの目的と社会科の役割の検討を踏まえて—」『社会科研究』第64号、2006年。
  - ・土肥大次郎「社会的意思決定の批判的研究としての授業—真理性と正当性を保障する意思決定型授業「原発政策」の開発—」『社会系教科教育学研究』第23号、2011年。
- 4) 溝口和宏「社会問題科の内容編成原理」社会認識教育学会編『社会科教育のニュー・パースペクティブ—変革と提案—』明治図書、2003年。

**付記** 本稿は長崎大学教育学部の平成26年度・学部長裁量経費による支援プロジェクト「社会問題に対する思考力育成を重視した中学校社会科授業の研究」の成果の一部である。